

## 構想の背景

杉並区は「みどり豊かな住まいのみやこ」を標榜し、自然と住宅が調和した地域づくりを目指しています。西荻北地域は約100年前より民間と行政が協働してまちづくりを実施してきました、その痕跡は区立井荻公園周辺(愛称どんぐり公園)に残されています。例えば、道路は100年前の区画整理事業の成果として、整然とした基盤の目状に整備されています。又、自然環境は武蔵野台地のへりに位置して崖線と巨木が残され、そのへりからはいまだに湧水が湧き出しています。近年は、巨木を残す住民運動が契機となり「坂の上のけやき公園」が建設され、井荻公園内には住民の管理運営する区立「野草園」も設立されました。そして、この地域に隣接し校内に善福寺川が流れる井荻小学校では、20年間にわたり川の清掃活動と自然観察活動が全校的に継続して行われ、この地域環境が学習環境として育まれています。しかし、河川の水害対策として東京都は善福寺川上流調整池計画を昨年発表し、この地域の歴史的な自然と景観を破壊し地下に巨大トンネルとそれに伴う巨大管理棟と取水口を住宅地域に建設しようとしています。コンクリートで覆われた都市は、河川の氾濫ではなく都市の道路等インフラ自体から氾濫する都市型水害を発生させています。いまこそ「みどり豊かな住まいのみやこ」杉並区の住宅地からみどり土そして水から新たな都市のインフラを整備していかなければなりません。その先駆けとして、この地をグリーンインフラのモデル地区として住民が主体となった整備再生を考えていきたいのです。

## すぎなみグリーンインフラモデル地区構想

### 1) 構想の目的

この地を住民主体でグリーンインフラのモデル地区として計画し杉並区と協働して整備し、次世代に継続していける地域計画を実装していきます。

この地区住民主体のグリーンインフラモデル地区推進機構を設立し推進していきます。

### 2) 構想対象地域

杉並区西荻北4丁目 36, 37, 38, 39, 40・・・5丁目 3, 4, 17・・・善福寺1丁目

### 3) 主たる構想

#### ① 住民フィールドワーク構想

モデル地区の住民の各家での雨水対策とともに、道路・河川・公園等身近な公共空間の雨水調査を実施する。

#### ② 雨水利用モデル整備構想

井荻公園を一部雨庭公園として整備する。又井荻小学校・荻窪中学校での雨水実験施設を整備する。武蔵野市の下水道の見直し検討

#### ③ 実証研究構想

1,2での調査をデータ化していく。

#### ④ 情報発信啓発構想

データの公開、研究会開催等

すぎなみグリーンインフラモデル地区構想の地区計画試案。計画想定図参照。

## 整備地区

### I.グリーンインフラモデル整備地区(井荻公園内及び野草園のエリア)

子どもたちの遊ぶ空間の一部を、水とみどりの循環を実感できる施設として整備していく。

- a.井荻公園の水流施設を雨利用のモデルとして整備する。雨とみどりの循環を作り出す場としていく
- e.坂の上のけやき公園と公園前のカフェカノンと連携してグリーンインフラ情報発信づくりを目指す。

### II.グリーンインフラモデル整備地区(西荻北 38~39~40 の周辺)

雨水とともにある生活を実践しその楽しさを作り出していく。

この地区の道路にいくつかの排水設備モデルを設置しデータを取得する。

各家の駐車スペースを浸透膜舗装しその効果を観察調査する

下水道の大雨時の状態を観察調査する。

b.c

湧水施設として整備し、湧水の流量と雨水との関係を観察調査し湧水の実態を観察する。

### III.グリーンインフラモデル整備地区(荻窪中学校、井荻小学校)

グリーンインフラの学習拠点と位置づけ、特に雨水の循環を学び水と緑のある暮らしを想像できる設備と装置を配置する。井荻小学校では、現在の畑の部分を中心に拡幅する。雨と水を大切する暮らしと文化を次世代に伝えていく。

## 住宅雨水利用整備地区

雨水利用のある暮らしを楽しむ空間を各家が創造し楽しむ、新たな地域モデルを形成していく。

Aゾーン

Bゾーン

Cゾーン

Dゾーン

Eゾーン